





閘門から太平洋へ出ていく大型貨物船



船を上下させる閘門式の水路を通航する大型貨物船

のが大前提であり、もうひとつのポイントとしては、観光で落ちるお金が地元にも十分に還元されることです。このエコツーリズムを実現させるのがエコツアーであって、その種類にはいろいろありますが、あえてひと言でいうならば、「すごく自然を楽しみ、しかも環境に悪影響を与えない旅」といえます。それではパナマとコスタリカ紀行をお楽しみください。

まずは運河のためにアメリカ合衆国によってつくられた国、パナマを紹介します。パナマ・シティの西のはずれに太平洋と大西洋をつなぐ、全長 80km のパナマ運河があります。運河建設以前、太平洋と大西洋を行き来するには、南米最南端をまわらなければならず、物資の輸送に時間と費用がかかりました。そこで、1869 年に地中海と紅海をむすぶスエズ運河建設に成功したフランス人政治家のレセップスが、続いてパナマ運河の建設にとりかかりました。しかし、この計画は失敗に終わり、レセップスのあとを引き継いだのがアメリカです。工事開始にあたって、アメリカが運河を利用する権利の有効期間を 100 年とし、条約更新の優先権はアメリカ側にあり、コロンビア(当時、パナマ地峡はコロンビアの領土)は他国に運河を譲渡することはできないという、不平等な条約をコロンビアにつきつけました。当然、コロンビア政府はこの条約を拒否します。するとアメリカはパナマの反コロンビア勢力と手を組んで、アメリカに協力的な独立国家パナマをつくりあげてしま

ました。そしてパナマ政府との間で条約を結び、1904 年より工事に着工し、1914 年にパナマ運河を完成させたのです。パナマ運河が生み出す莫大な富は、こうしてアメリカへと流れることになりました。

1977 年、パナマ独自の政策をうちだしたオマル・トリホス大統領とアメリカのカーター大統領との間で新条約が結ばれ、運河に対するパナマ政府の権利が認められました。その後登場したノリエガ大統領はトリホス大統領がうちだした政策は維持したものの、麻薬組織と接触、武器の密輸にも手を貸し、反対派を誘拐して拷問したり暗殺したということで、1989 年にアメリカのブッシュ大統領がパナマへの軍事侵攻を開始しました。侵攻の名目は、パナマでのアメリカ市民の保護、パナマにおける民主主義の回復、新条約の遂行、麻薬追放であり、ノリエガ大統領逮捕のために 24,000 人ものアメリカ軍兵士がパナマに上陸しました。攻撃は貧しい人たちの暮らす地域に集中し、一般市民が 200 人以上も犠牲となり、エルチョーリヨ地区では約 1 万人が家を失いました。

新条約では 1999 年末までに運河の所有・管理権がアメリカからパナマに返還されること、正当公平な利益の配分、運河防衛の分担などがうたわれています。私が訪れた時は返還後であり、アメリカ軍の撤退によって街には活気がありませんでした。パナマ・シティの中心から車で 20 分のところにパナマ運河の太平洋側の閘門



機関車に牽引されて閘門を進む大型貨物船



ミラフローレス閘門に入ってくる大型貨物船

であるミラフローレス閘門があります。ここには4階建てのビジターセンターがあり、展望台の観覧席より閘門の開閉と通過する船舶の様子を見学できます。水路を閘門で区切って、船を上下させる閘門式のミラフローレス閘門には水路が2本あり、手前の船と奥の船は進行方向が違ってきます。また、この水路では機関車に牽引されて船舶が進みます。水路幅ギリギリの大型船舶の通航は一見の価値がありました。

これより今回のメインであるコスタリカを紹介します。中米の花園と呼ばれるコスタリカは、近隣の国家とは異なり軍隊を持たず、平和主義を憲法で明示している中立国家です。また、教育に非常に力を注いでおり、国家予算の約4分の1を長年にわたり教育費に充てている民主国家でもあります。COSTA RICAとは、スペイン語で「豊かな海岸」を意味します。太平洋岸とカリブ海に挟まれ、無数の美しいビーチを持つコスタリカは、四国と九州を合わせたほどの小さな国土ですが、変化に富んだ地形に恵まれた熱帯雨林や海や川は、貴重な動植物の宝庫(全動物種の約5%で、鳥類は10%)として世界的に知られており、国土の3割近い面積を自然保護区や国立公園(保護区)に指定し、森林の伐採、乱開発を禁止しています。

昨年、『the blue butterfly(邦題；天国の青い蝶)』という映画がロードショー公開されました。国際的に知られる昆虫学者と末期脳腫瘍を患うカナダの少年との間に起きた奇跡的な実話

をもとに制作された映画です。少年が実際に訪れたのはメキシコですが、映画の舞台となったのはコスタリカの美しい熱帯雨林でした。ストーリーもさることながら、カメラがとらえたロケ地コスタリカの美しい大自然とそこで生きる先住民の暮らし、スクリーンをにぎわす色鮮やかな熱帯の生き物たち、ワクワクするような未知の世界との出会いに、誰もが目を奪われ、思わず引き込まれてしまうことでしょう。コスタリカの最大の魅力は、なんとといっても豊かな大自然です。鳥類は全世界9,000種のうち、その10%(850種)に及ぶ種が生息しており、世界中のバードウォッチャーが憧れる「バードウォッチング天国」といわれています。そして、映画の中で描かれている蝶も、全世界の蝶類の10%(1,239種)に及ぶ種が生息しています。とくに目を惹くのが映画の中でも登場するブルーモルフォです。世界で最も美しいといわれるメタリックブルーに光り輝く蝶は、この国の自然ともマッチしてより神秘的に見えます。この他にも変化に富んだ地形と穏やかな気候により、様々な種類の生物の宝庫となっています。

この度訪れたのは、ブラウリオ・カリージョ国立公園、トルトゥゲーロ国立公園、アレナル火山国立公園のタバコン温泉、モンテベルデ自然保護区です。

コスタリカの首都サンホセから最初の訪問地であるトルトゥゲーロ国立公園を目指して国道を北東に向かい、2~3時間もすると、緑に覆わ



コスタリカの地図

れた尾根が見えてきました。バスは脇道に入り、まもなく一軒の小屋と木の看板があるだけのところに停車しました。ガイドが、「ブラウリオ・カリージョ国立公園に着きました。これからジャングルを散策しましょう。」と言うと、人ひとり通れるくらいの茂みの隙間からジャングルの中へと入って行きました。森林の植物は神秘的な空気をたたえており、巨大な木生シダの陰からは今にも恐竜が飛び出してきそうな雰囲気です。およそ2時間ジャングルの中を散策しましたが、残念ながら恐竜どころか珍獣にも出くわさず、しかも足元の状況があまりよくないので樹上を見上げながらは歩けず、野鳥のさえずりはたくさん聞くものの、数羽しか観ることができませんでした。

バスは、カヨブランカの船着き場までひたすら広大なバナナ果樹園の中を走り続けました。カリブ海沿岸の北部に広がるトルトゥゲーロ国立公園は、道路のない未開のジャングル地帯で、ボートに乗り換えてロッジまで行きます。トルトゥゲーロへの川はカリブの海岸線とほぼ平行に走り、ところどころ途切れて大西洋へと流れこんでいます。緑の壁のようなジャングルの間を抜けて流れる川で、椰子が生い茂る間をクル

ーズするのは、まさに冒険気分いっぱいでした。約80kmにわたって海沿いに走る川と周辺の熱帯雨林は、様々な野生動物の楽園になっており、うっそうとした森からはホエザルのうなり声やトゥカンのさえずりが響き、ボートから岸辺にいるワニや木の上枝で交尾しているイグアナ、川面をゆうゆうと飛ぶ数種類の水鳥などを観察しました。トルトゥゲーロとは「海亀のいる場所」という意味で、浜辺にはカリブ海一帯から巨大なウミガメが7~10月にかけて産卵にやってきます。

私は、川は国境であって国土ではないと思っていました。しかし、ニカラグアではニカラグアに接する部分の川を国土として扱っているのです。つながっている水路なので、プエルトビエホに行く途中には、この場所を通らなくてはなりません。通過にわずか30分要するだけですが、コスタリカ側で出国手続きをし、対岸でニカラグアの入国手続きをします。そしてまたニカラグア側で出国手続きをしてから、対岸でコスタリカの入国手続きをするのです。コスタリカでの手続きは下船しなくてもすみますが、迷彩服を着た兵隊がいるニカラグアでは全員上陸して手続きをしなくてはなりません。手続きにも時間を要するため、しばしのニカラグア観光となりました。



樹木を行き交うホエザル



樹上でさえざるトゥカン



木の上枝で交尾しているイグアナ



コスタリカで最もアクティブな活火山アレナル

ボートからバスに乗り換え、一路アレナル火山国立公園へと。標高 1,633m のアレナル火山はコスタリカで最もアクティブな活火山です。遠くからの眺めは、富士山に似た円錐形の優美な姿ですが、近づいてみると山肌のあちこちか

ら噴煙をあげ、時々火口から断続的に真っ赤な溶岩を吹き出しています。アレナル火山の麓にあるタバコン・リゾートは、温泉の流れる川が広い庭園を横切り、大小の温泉や温泉プール、ジャグジーや滝のような打たせ湯などがあり、



道路脇の木にナマケモノが！

プールのバーからは活火山見物もできます。12月31日だったので、アレナル火山を仰ぎ見ながらゆっくり温泉につかって、1年の疲れと旅の汗を流しました。

コスタリカでは観光地へ行くのに幹線道路以外は舗装されておらず、砂利道を走ります。道路脇の木にナマケモノがいたり、タヌキに似たクアテムンディの群が道路に現れたりで思わず大感激。土壌浸食の激しい裸地やはげ山が長い間続いた後、急な坂道を登り、標高約1,500mの高地にあるモンテベルデ自然保護区に到着。モンテベルデとは「緑の山」という意味で、熱帯

雲霧林という独特の生態系をもった森に覆われている地域です。ここで有名なのは、マヤやアステカの人々が神と崇め、現在では保護鳥とされているケツァールと繊細な体をもった宝石のようなハチドリです。ケツァールは、標高1,500m以上の雲霧林に棲んでおり、捕まえてかごに入れると死んでしまう、飼育ができない野鳥です。このことから「自由の象徴」として中米で人気があるのです。ケツァールは、全体が鮮やかな緑色ですが、胸の部分の羽毛だけ真っ赤なのが目立ちます。ケツァールのエサは、アボカドに似たアグアカティエロと呼ばれる木の



道路に現れたりクアテムンディの群



幻の鳥ケツァール



ハミングバードギャラリーに集まるハチドリ

実と小さな昆虫です。見ていると、アグアカティエロを呑み込み、種だけを器用に吐き出していました。ハミングバードギャラリーに集まってくるハチドリは、蛾と見間違えるような体長(10 cm 以下)ながら、もの凄い速さで羽ばたいて(1秒間に80回)空中に浮かび(ホバリング)、まるで空中で止まっているかのようにして餌皿の花の蜜を吸っています。

モンテベルデではスリル満点のキャノピー・ツアーにもトライしました。ジャングルの樹上(地上30 mの高さ)に張られたケーブルを滑車で渡り、熱帯雲霧林を樹冠から観察します。これは絶対にお勧めです。

サンホセへの帰路、コーヒー畑を見物しに伝統的な牛車カレータ(コーヒー運搬用)の製造で名高い山合いの村サルチーに寄り、お土産のコーヒーや民芸品も買いました。

エコツーリズムの発祥地コスタリカでは、自然の奥深くへと入り込み、そこに生きる動物を身近に観察できる自然遺産というハードと、人々を導き案内するガイドというソフトの両面が整えられています。

昨今は『癒しブーム』ですが、本当に心とからだをやさしく癒してくれるのは、原生林の空気を胸いっぱい吸い込み、鳥のさえずりに耳を澄ませ、神秘的な生物たちとのふれあいなど、大自然の力であらうと感じました。



熱帯雲霧林の樹冠をキャノピー・ツアーで



スリル満点のキャノピー・ツアーより無事生還



伝統的なコーヒー運搬用牛車カレータ

“PURA VIDA”とは、コスタリカの挨拶で「人生は、いきいきと楽しく」という意味です。読者の皆様にとって来年が良い年でありますように。“PURA VIDA”